

青山サロン みんなで俳句をつくりましょう！



短歌・川柳・詩も OK よいお年を！



ハイクだより NO.2 2022年 12月 30日

夏井いつき先生のことばから

俳句を知ると人生が変わる！

俳句こそ人生だ！

○俳句で脳トレ！老けない脳に。

○俳句で人生が楽しくなる！

頭もよくなる！

○俳句で脳が若返る！

認知症も防げる！

☆俳句がうまくなるコツは、「とにかく毎日作ること」。スポーツと一緒に、ルールは覚える必要があるけれど、まずは走る。ボールをけるなどの練習をしなければ始まりません。理論や理屈は作りながら勉強していけばいいのです。



俳句は、五・七・五で12音。音の数え方は、「チューリップ」で、チュ・ー・リップで5音。チュ拗音、一長音、ッ促音それぞれ1音と数えます。「ファンタジー」は、ファン・タ・ジ・ーで5音。「ティッシュペーパー」は、ティ・ツ・シュ・ペ・ー・パ・ーで7音。

※季語を入れて、五七五を基本とした17音が基本です。季語のことを季題、^{ことば}季の詞、四季の^{ことば}詞、季寄せとも呼びます。

俳句の季節は旧暦です。

春	立春から立夏の前日まで
夏	立夏から立秋の前日まで
秋	立秋から立冬の前日まで
冬	立冬から立春の前日まで
新年	1月1日から15日まで

俳句・短歌・川柳を新聞や雑誌などから紹介します。俳人や歌人以外は苗字のみです。

俳句のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語が入る(季節を表す魔法の言葉。)
- ③ 切れ字がある(や かな けり)

- ◆ 牡蠣鍋や定員割れの消防団…寺尾
- ◆ 降るような蜻蛉の群れの夕日かな…矢崎
- ◆ 物の値の上がる報せに行く秋ぞ…榊原
- ◆ 十六茶値上げで今はおーい水…大島
- ◆ 薬待つ人の多さよ冬に入る…田村
- ◆ 昼過ぎの休憩なしの菊人形…盛田
- ◆ 冬鴟のけたたましさや第八波…高橋
- ◆ 大根煮て皆既月食待ちにけり…羽田
- ◆ 思い切り障子破らせ障子貼る…田村
- ◆ 鋤焼や日本一の宮崎牛…馬場
- ◆ 落鮎を川原に受る家族かな…芝

短歌のしくみ

- ① 五七五七七の三十一音
- ② 季語はいらない。

- 子のために来て親のため去り行くを
宮崎空港今日も快晴…俵万智
(両親の暮しのサポートのため十月、仙台に引越した)
- 仕事終え目のあちこちに風呂使い
天国だあと笑みおりし母…福田
- 太陽と地球と月と天王星今並んだぞ
今生おひる…松下
- 1リッター1円安キスタンドで
ガソリン入れるガソリン使い…高橋
- 値上げる前に大量買いしても
賞味期限は待つてはくれず…佐藤
- ブルーベリーの变化楽しき初夏青葉
青い実、黒い実、いま真つ赤な葉…押川
- 畑では真白く降れる初雪が
玉葱の緑を引き立てている…辰川
- 老夫婦の日々の汗水実を結び
稲穂のたなる十町歩の田…山本

川柳のしくみ

- ① 五七五の十七音
- ② 季語はいらない。

- ★ マジックでサンマ定食消してある…さつ茶
- ★ あんれまあもはやサンマは高級魚…添野
- ★ 大臣をしていた事さえ忘れそう…金子
- ★ 五輪とは「利権の祭典」だったのね…津々木
- ★ シンゾーよ国葬は行けぬウラジミール…福助
- ★ 何もせず子はちゃっかりと秘書にする…石寺
- ★ 再稼働津波地震も何のその…島尻
- ★ 本当に効いているのかフクチンは…滝川
- ★ 物価高なんて年金上げないの…坂口
- ★ ハロウィーン坂の悲劇を忘れない…水野
- ★ 温暖化進むが暮らしては寒冷化…松井
- ★ カードより脳Tのつもり小銭出す…田口

青山公民館の玄関に「青山サロン ポスト」を設置しました



いつでも、何でも、だれでも OK。

俳句、短歌、川柳、詩などを投函して下さい！作品には俳号（お名前）、作成した月をお忘れなく。できれば、いつ、どんな時に作ったのかも書いていただけると good！

青山の作品コーナー

その①

※土手のもみじに惚れた。行きかう村の人

木々に感謝する。 川崎 年治

◆野良帰り道端染める五色の葉

◆朝露に燃えるもみじ息をのむ

◆朝露に光る深紅の葉一人じめ

※陽だまり惜しむ愛猫を一句 好々猫

◆逃げてゆくああ陽だまりよ行かじやいで

※冬の農作業などで一句 恣弘

◆天気見て唐黍作りマルチ張る

◆一時待て背中が腰が冬至風呂

◆トラクター作業に追われる師走かな

◆息白し安否を問う墓掃除

◆青山も寂しくなりぬ空き家増す



渥美清と俳句①

森英介『風天 渥美清のうた』文春文庫より

渥美清はどんな親しい友人にも決して私生活を明かさなことで有名な人だった。自分の死も茶毘に付すまで世間には知らせるな、と家族に言い残したのはよく知られている。ほとんど知られていなかった趣味の俳句。風天渥美清はその68年の生涯にいったいくつの俳句を作ったのか？

1965(昭和 40)年に創刊された『話の特集』は若者を中心に熱狂的に支持され、当時の雑誌文化に大きな影響を与えた。この雑誌の創刊当初から「話の特集句会」がお遊び句会としてスタートした。その句会に渥美清が永六輔に連れられて初めて参加したのは1973年3月。「男はつらいよ」シリーズで最も人気の高かった浅丘ルリ子扮するルリ子が初めて登場した第11作「寅次郎忘れな草」が公開された年だった。句会を主宰した矢崎は、当時の渥美清の様子を「句会に来る前はあまり気が進まなかったようですが、いざ来てみるととても熱心だった。彼は人見知りをするというかシャイで照れ屋。俳号をみんなで考えて、フーテンの寅だからやっぱり風天がいいということになり、渥美ちゃんも納得した」

この「話の特集句会」のメンバーは、矢崎泰久・和田誠・永六輔・小沢昭一・富士真奈美・岸田今日子・黒柳徹子・山本直純・長新太・浅井慎平・中山千夏・渥美清・吉永小百合・うつみ宮土理・山藤章二・中村八大・小室等・白石冬美・岩城宏之・吉行和子・俵万智・黛まどか……………などなど

朝日新聞の週刊誌「アエラ」の句会が1990年2月に発足し、風天渥美清はその第4回句会(1991年10月)に初めて顔を見せ、約3年近く参加した。フーテンの寅さんと風天は、個性を全く異にしていた。寡黙。みんながビールを飲みながら、がやがややっている隣室の隅の暗がり、一人壁に向かって想を練っている。鬼気さへ感じられた。句会が終わると、最寄りの居酒屋に繰り出すことになっていたが、風天はそれに加わらず、文字通り風のごとく、みごとに姿を消した。(つづく)

